管理部・ヘッダ部の運用整理表

通番	資料(情報)名	運用種別情報 Head部 InfoKind	情報名称 Control部 Title 	DateTime	Status	EditorialOffice	PublishingOffice	通信処理用← →具体電文内容 Head部 ReportDateTime	TargetDateTime	TargetDTDubious	TargetDuration	ValidDateTime	EventID	InfoType	Serial	Code値の出現する要素	備考
1	特殊気象報	”特殊気象報”	”季節観測”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※観測担当官署	※観測担当官署(”東京管区気象台”)	発表日時分	観測日	–	–	–	発表日時分＋観測項目	発表/訂正/取消	–	–	
2	生物季節観測報告気象報	”生物季節観測報告気象報”	”生物季節観測”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※観測担当官署	※観測担当官署(”東京管区気象台”)	発表日時分	観測日	–	–	–	発表日時分＋観測項目	発表/訂正/取消	–	–	
3	特殊気象報(トクシユ)	”特殊気象報”	”特殊気象報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※観測担当官署	※観測担当官署(”東京管区気象台”)	発表日時分	観測日時分	–	–	–	発表日時分＋観測項目※6	発表/訂正/取消	–	–	
4	特殊気象報(フレ)		”特殊気象報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※観測担当官署	※観測担当官署(”東京管区気象台”)	発表日時分	観測日時分	–	–	–	発表日時分＋観測項目	発表/訂正/取消	–	–	
5	紫外線観測データ	”環境気象情報”	”紫外線観測データ”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”	”気象庁地球環境・海洋部”	発表日時分	観測日時	–	–	–	–	発表	–	–	
6	全般台風情報(総合情報、上陸等情報)，発達する熱帯低気圧に関する情	”同一現象用平文情報”	”全般台風情報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”	”気象庁”	発表日時分※1	同左	–	–	–	「TC」＋西暦の下二桁＋実際のTC番号二桁※3	発表/訂正/取消	n(1〜)、x(1〜)-y(1〜)※	–	総合/上陸/発達する熱帯低気圧に関する情報
7	全般台風情報(位置、発生情報)，発達する熱帯低気圧に関する情報		”全般台風情報(定型)”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”			発表日時分※2	同左	–	–	–		発表/訂正/取消	空タグ、n(1〜)、x(1〜)-y(1〜)※	–	発生/位置/発達する熱帯低気圧に関する情報
8	全般台風情報(位置詳細)		”全般台風情報(詳細)”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”			発表日時分※2	同左	–	–	–		発表/訂正/取消	n(1〜)	–	位置詳細
9	台風解析・予報情報電文(新形式)	”台風解析・予報情報(3日予報)”	”台風解析・予報情報(3日予報)”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”	”気象庁”	発表日時分※2	解析日時刻	–	予報対象期間の長さ	–		発表/訂正/取消	n(1〜)	Kind,Area§	定時報　§Areaのcode値は一部の要素に出現
10	台風解析・予報情報(延長予報)電文(新形式)	”台風解析・予報情報(5日予報)”	”台風解析・予報情報(5日予報)”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”	”気象庁”	発表日時分※2	解析日時刻	–	予報対象期間の長さ	–		発表/訂正/取消	n(1〜)	Kind,Area§	臨時報　§Areaのcode値は一部の要素に出現
10	台風解析・予報情報(延長予報)電文(新形式)		”台風解析・予報情報(5日予報)(H30)”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”												臨時報　§Areaのcode値は一部の要素に出現
11	全般海上警報(定時)	”全般海上警報”	”全般海上警報(定時)”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”	”気象庁”	発表日時分※2	同左	–	–	警報の有効終了日時	–	発表/訂正	–	Kind	定時報
11	全般海上警報(定時)		”全般海上警報(定時)(H29)”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”												定時報
12	全般海上警報(臨時)		”全般海上警報(臨時)”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”												臨時報
12	全般海上警報(臨時)		”全般海上警報(臨時)(H29)”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”												臨時報
13	地方海上警報	”地方海上警報”	”地方海上警報” ”地方海上警報(H28)”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※海上予報中枢官署	※海上予報中枢官署(”気象庁”)	発表日時分※2	同左	–	–	警報の有効終了日時	–	発表/訂正	–	Kind,Area	
14	地方海上予報	”地方海上予報”	”地方海上予報” ”地方海上予報(H28)”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※海上予報中枢官署	※海上予報中枢官署(”気象庁”)	発表日時分※2	同左	–	予報対象期間の長さ	–	–	発表/訂正/遅延	–	–	
15	気象特別警報・警報・注意報	”気象警報・注意報”	”気象警報・注意報” ”気象特別警報・警報・注意報” ”気象警報・注意報(H27)”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※府県予報担当官署・分担官署	※府県予報担当官署・分担官署(”気象庁”)	発表日時分※1	同左	–	–	–	–	発表/訂正	–	Kind,Area	
16	指定河川洪水予報	”指定河川洪水予報”	”指定河川洪水予報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※府県予報担当官署・分担官署	※気象庁・国土交通省または自治体共同発表	発表日時分※1	同左	–	–	–	指定河川洪水予報(予報区域)コード	発表/訂正/取消	n(1〜)	Kind,Area	
17	土砂災害警戒情報	”土砂災害警戒情報”	”土砂災害警戒情報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※府県予報担当官署	※気象庁・自治体共同発表	発表日時分※1	同左	–	–	–	発表対象地域+”土砂災害警戒情報”※5	発表	n(1〜)	Kind,Area	
18	記録的短時間大雨情報	”記録的短時間大雨情報”	”記録的短時間大雨情報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※府県予報担当官署・分担官署	※府県予報担当官署・分担官署・”気象庁”§	発表日時分※1	同左	–	–	–	発表官署地点略号+y1y1y1y1M1M1d1d1h1h1m1m1_y2y2y2y2M2M2d2d2h2h2m2m2 ※4	発表/訂正/取消	n(1〜)	–	§2019/1/29より茨城県、栃木県、群馬県、千葉県、埼玉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県を対象とする場合は“気象庁”とする。また、2019/6/4より常に“気象庁”とす
19	竜巻注意情報	”竜巻注意情報”	”竜巻注意情報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※府県予報担当官署・分担官署	※府県予報担当官署・分担官署・”気象庁”§	発表日時分※1	同左	–	–	注意情報の有効終了日時	–	発表/訂正	n(1〜)	Kind,Area	§2019/1/29より茨城県、栃木県、群馬県、千葉県、埼玉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県を対象とする場合は“気象庁”とする。また、2019/6/4より常に“気象庁”とす
			”竜巻注意情報(目撃情報付き)”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※府県予報担当官署・分担官署	※府県予報担当官署・分担官署・”気象庁”§	発表日時分※1	同左	–	–	注意情報の有効終了日時	–	発表/訂正	n(1〜)	Kind,Area	
20	全般気象情報	”同一現象用平文情報”	”全般気象情報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”	”気象庁”	発表日時分※1	同左	–	–	–	対象現象毎に一意の文字列	発表/訂正/取消	n(1〜)	–	
21	地方気象情報		”地方気象情報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※地方予報担当官署	※地方予報担当官署(”気象庁”)	発表日時分※1	同左	–	–	–		発表/訂正/取消	n(1〜)	–	
22	府県気象情報		”府県気象情報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※府県予報担当官署・分担官署	※府県予報担当官署・分担官署(”気象庁”)	発表日時分※1	同左	–	–	–		発表/訂正/取消	n(1〜)	–	
23	天気概況	”平文情報”	”府県天気概況”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※府県予報担当官署	※府県予報担当官署(”気象庁”)	発表日時分※1	同左	–	–	–	–	発表/訂正	–	–	
24	府県天気予報，地域時系列予報	”府県天気予報”	”府県天気予報” ”府県天気予報(R1)”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※府県予報担当官署	※府県予報担当官署(”気象庁”)	発表日時※3	同左	–	予報対象期間の長さ	–	–	発表/訂正/遅延	–	–	
27	府県週間天気予報	”府県週間天気予報”	”府県週間天気予報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※府県予報担当官署	※府県予報担当官署(”気象庁”)	発表日時※3	予報開始日	–	予報対象期間の長さ	–	–	発表/訂正/遅延	–	–	
28	スモッグ気象情報	”同一現象用平文情報”	”スモッグ気象情報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※スモッグ担当官署	※スモッグ担当官署(”気象庁”)	発表日時分※1	同左	–	–	–	対象現象毎に一意の文字列	発表/訂正/取消	n(1〜)	–	
29	全般気象情報（社会的に影響の大きい天候に関する情報）	”天候情報”	”全般天候情報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”	”気象庁”	発表日時	同左	–	–	情報の有効終了日時	対象現象毎に一意の文字列	発表/訂正/取消	n(1〜)	–	
30	地方気象情報（社会的に影響の大きい天候に関する情報）		”地方天候情報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※地方予報担当官署	※地方予報担当官署(”気象庁”)	発表日時	同左	–	–	情報の有効終了日時§	対象現象毎に一意の文字列	発表/訂正/取消	n(1〜)	–	§梅雨に関する天候情報に限り、ValidDateTime は記述されない
32	震度速報	”震度速報”	”震度速報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”,”大阪管区気象台”	”気象庁”	発表日時分	現象発現時刻	ー	ー	ー	地震識別番号※1	発表/取消	ー	Area	
33	地震情報(震源に関する情報)	”震源速報”	”震源に関する情報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”,”大阪管区気象台”	”気象庁”	発表日時分	同左	ー	ー	ー	地震識別番号※1	発表/取消	ー	–	
34	地震情報(顕著な地震の震源要素更新のお知らせ)	”震源要素更新のお知らせ”	”顕著な地震の震源要素更新のお知らせ”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”,”大阪管区気象台”	”気象庁”	発表日時分	解析日時分	ー	ー	ー	地震識別番号※1	発表/取消	ー	–	
	地震情報(地震回数に関する情報)	”地震回数情報”	”地震回数に関する情報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”,”大阪管区気象台”	”気象庁”	発表日時分	同左	ー	ー	ー	地震識別番号※1	発表/取消	n(1〜)	–	
	地震情報(地震の活動状況等に関する情報)	”地震の活動状況等に関する情報”	”地震の活動状況等に関する情報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”,”大阪管区気象台”	”気象庁”	発表日時分	同左	ー	ー	ー	地震識別番号※1	発表/取消	ー	–	
35	地震情報(震源・震度に関する情報)	”地震情報”	”震源・震度に関する情報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”,”大阪管区気象台”	”気象庁”	発表日時分	同左	ー	ー	ー	地震識別番号※1	発表/取消	n(1〜)	Area	XMLでは、現行の「地震情報(震源・震度に関する情報)」、「地震情報(各地の震度に関する情報)」及び「地震情報(遠地地震に関する情報)」を1種類の電文に集約して発信する。
36	緊急地震速報(予報)	”緊急地震速報”	”緊急地震速報(予報)”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”,”大阪管区気象台”	”気象庁”	発表日時分秒	同左	ー	ー	ー	地震識別番号※1	発表/取消	n(1〜)	–	
37	緊急地震速報(警報)		”緊急地震速報(警報)”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”,”大阪管区気象台”	”気象庁”	発表日時分秒	同左	ー	ー	ー	地震識別番号※1	発表/取消	n(1〜)	Kind,LastKind,Area	
38	津波情報	”津波情報”	”津波情報a”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”,”大阪管区気象台”	”気象庁”	発表日時分	解析日時分	ー	ー	ー	地震識別番号※1※2	発表/取消	n(1〜)	–	複数地震による津波の場合はEventIDが併記される。 XMLでは、現行の「津波情報(各地の満潮時刻・津波到達予想時刻に関する情報)」及び「津波情報(津波観測に関する情報)」を1種類の電文に集約して発信する。
39	津波警報・注意報・予報	”津波警報・注意報・予報”	”津波警報・注意報・予報a”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”,”大阪管区気象台”	”気象庁”	発表日時分	同左	ー	ー	津波予報(若干の海面変動)の失効時刻	地震識別番号※1※2	発表/取消	ー	Kind,LastKind,Area	複数地震による津波の場合はEventIDが併記される。 XMLでは、現行の「津波警報・注意報」、「津波情報(津波到達予想時刻・予想される津波の高さに関する情報)」及び「津波情報(津波に関するその他の情報)」(＝津波予報(若干の海面変動))を1種類の電文に集約して発信する。
42	地震・津波に関するお知らせ	”地震・津波に関するお知らせ”	”地震・津波に関するお知らせ”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”,”大阪管区気象台”	”気象庁”	発表日時分	同左	ー	ー	ー	発表日時分	発表/訂正/取消	ー	–	EventIDは訂正/取消のための索引
	火山に関するお知らせ	”火山に関するお知らせ”	”火山に関するお知らせ”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※火山担当官署	※火山担当官署(”気象庁”)	発表日時分	同左	–	–	–	発表日時分	発表/訂正/取消	–	–	EventIDは訂正/取消のための索引
43	噴火に関する火山観測報	”噴火に関する火山観測報”	”噴火に関する火山観測報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※火山担当官署	※火山担当官署(”気象庁”)	発信日時分	現象日時分。不明な場合は空タグとする	現象の時刻に「頃」がつく場合に”頃”を入れる	–	–	発表日時分＋火山番号	発表/訂正/取消	n(1〜)	Kind,Area	EventIDは訂正/取消のための索引
44	火山の状況に関する解説情報	”火山の状況に関する解説情報”	”火山の状況に関する解説情報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※火山担当官署	※火山担当官署(”気象庁”)	発表日時分	同左	–	–	–	火山番号	発表/訂正	n(1〜)	Kind,LastKind,Area	
45	噴火警報・予報	”噴火警報・予報”	”噴火警報・予報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※火山担当官署	※火山担当官署(”気象庁”)	発表日時分	同左	–	–	–	火山番号	発表/訂正	–	Kind,LastKind,Area	
46	火山現象に関する海上警報・海上予報	”火山現象に関する海上警報・海上予報”	”火山現象に関する海上警報・海上予報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※火山担当官署	※火山担当官署(”気象庁”)	発表日時分	観測日時	–	–	–	火山番号	発表/訂正	–	Kind,LastKind,Area	
47	府県海氷予報	”平文情報”	”府県海氷予報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※府県海氷担当官署	※府県海氷担当官署	発表日時分※1	同左	–	–	–	–	発表/訂正	–	–	
48	全般潮位情報	”同一現象用平文情報”	”全般潮位情報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”	”気象庁”	発表日時分※1	同左	–	–	–	対象現象毎に一意の文字列	発表/訂正/取消	n(1〜)	–	
49	地方潮位情報		”地方潮位情報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※地方潮位情報担当官署	※地方潮位情報担当官署(”気象庁”)	発表日時分※1	同左	–	–	–	対象現象毎に一意の文字列	発表/訂正/取消	n(1〜)	–	
50	府県潮位情報		”府県潮位情報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※府県予報担当官署・分担官署	※府県予報担当官署・分担官署(”気象庁”)	発表日時分※1	同左	–	–	–	対象現象毎に一意の文字列	発表/訂正/取消	n(1〜)	–	
51	全般季節予報	”季節予報”	”全般1か月予報”,”全般3か月予報”,”全般暖・寒候期予報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”	”気象庁”	発表日時	予報対象先頭日時	–	予報対象期間の長さ	–	–	発表/訂正	–	–	
52	地方季節予報		”地方1か月予報”,”地方3か月予報”,”地方暖・寒候期予報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※地方予報担当官署	※地方予報担当官署(”気象庁”)	発表日時	予報対象先頭日時	–	予報対象期間の長さ	–	–	発表/訂正	–	–	
54	緊急地震速報の配信テスト電文	”緊急地震速報”	”緊急地震速報配信テスト”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”,”大阪管区気象台”	”気象庁”	発表日時分秒	同左	ー	ー	ー	地震識別番号※1	発表/取消	n(1〜)	–	
55	全般スモッグ気象情報	”同一現象用平文情報”	”全般スモッグ気象情報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”	”気象庁”	発表日時分※1	同左	–	–	–	対象現象毎に一意の文字列	発表/訂正/取消	n(1〜)	–	
56	地方高温注意情報		”地方高温注意情報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※地方予報担当官署	※地方予報担当官署(”気象庁”)	発表日時分※1	同左	–	–	–	対象現象毎に一意の文字列	発表/訂正/取消	n(1〜)	–	
57	府県高温注意情報		”府県高温注意情報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※府県予報担当官署・分担官署	※府県予報担当官署・分担官署(”気象庁”)	発表日時分※1	同左	–	–	–	対象現象毎に一意の文字列	発表/訂正/取消	n(1〜)	–	
	熱中症警戒アラート		”熱中症警戒アラート”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※府県予報担当官署・分担官署	”環境省 気象庁”	発表日時分※1	同左	–	–	–	対象現象毎に一意の文字列	発表/訂正/取消	n(1〜)	–	
58	地上実況図	”天気図情報”	”地上実況図”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”	”気象庁”	発表日時分※2	観測日時刻	–	–	–	–	発表/訂正/取消	–	–	
59	地上24時間予想図		”地上24時間予想図”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”	”気象庁”	発表日時分※2	数値予報初期時刻	–	–	–	–	発表/訂正/取消	–	–	
60	地上48時間予想図		”地上48時間予想図”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”	”気象庁”	発表日時分※2	数値予報初期時刻	–	–	–	–	発表/訂正/取消	–	–	
61	沖合の津波観測に関する情報	”津波情報”	”沖合の津波観測に関する情報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”,”大阪管区気象台”	”気象庁”	発表日時分	解析日時分	ー	ー	ー	地震識別番号※1※2	発表/取消	n(1〜)	–	複数地震による津波の場合はEventIDが併記される。
62	気象特別警報報知	”気象特別警報報知”	”気象特別警報報知”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※府県予報担当官署・分担官署	※府県予報担当官署・分担官署(”気象庁”)	発表日時分※1	同左	–	–	–	–	発表/訂正	–	Kind,Area	
63	アジア太平洋地上実況図	”天気図情報”	”アジア太平洋地上実況図”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”	”気象庁”	発表日時分※2	観測日時刻	–	–	–	–	発表/訂正/取消	–	–	
64	アジア太平洋海上悪天24時間予想図		”アジア太平洋海上悪天24時間予想図”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”	”気象庁”	発表日時分※2	数値予報初期時刻	–	–	–	–	発表/訂正/取消	–	–	
65	アジア太平洋海上悪天48時間予想図		”アジア太平洋海上悪天48時間予想図”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”	”気象庁”	発表日時分※2	数値予報初期時刻	–	–	–	–	発表/訂正/取消	–	–	
66	降灰予報	”降灰予報”	”降灰予報(定時)”,”降灰予報(速報)”,”降灰予報(詳細)”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※火山担当官署	※火山担当官署(”気象庁”)	発表日時分	降灰予報の開始時刻	–	–	降灰予報の失効時刻	火山番号	発表/訂正/取消	n(1〜)	Kind,Area	
67	噴火速報	”噴火速報”	”噴火速報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※火山担当官署	※火山担当官署(”気象庁”)	発信日時分	現象日時分	現象の時刻に「頃」がつく場合に”頃”を入れる	–	–	発表日時分＋火山番号	発表/訂正/取消	–	Kind,Area	EventIDは訂正/取消のための索引
68	警報級の可能性(明日まで)	”警報級の可能性(明日まで)”	”警報級の可能性(明日まで)”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※府県予報担当官署	※府県予報担当官署(”気象庁”)	発表日時※3	予報開始日時	–	予報対象期間の長さ	–	–	発表/訂正/遅延	–	–	
69	警報級の可能性(明後日以降)	”警報級の可能性(明後日以降)”	”警報級の可能性(明後日以降)”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	※府県予報担当官署	※府県予報担当官署(”気象庁”)	発表日時※3	予報開始日	–	予報対象期間の長さ	–	–	発表/訂正/遅延	–	–	
70	全般季節予報(2週間気温予報)	”平文情報”	”全般季節予報(2週間気温予報)”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”	”気象庁”	発表日時	予報対象先頭日時	–	予報対象期間の長さ	–		発表/訂正	–		
71	地方季節予報(2週間気温予報)	”2週間気温予報”	”地方季節予報(2週間気温予報)”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”	”気象庁”	発表日時	予報対象先頭日時	–	予報対象期間の長さ	–	–	発表/訂正/遅延	–	Area,Station	
72	早期天候情報	”早期天候情報”	”早期天候情報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”	※地方予報担当官署(”気象庁”)	発表日時	予報対象先頭日時	”頃”	予報対象期間の長さ	情報の有効終了日時	–	発表/訂正	–	Area	
73	大雨危険度通知	”大雨危険度通知”	”大雨危険度通知”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”	”気象庁”	発表日時分	同左	–	–	–	–	発表/訂正/遅延	–	Kind,Area	
74	南海トラフ地震臨時情報	南海トラフ地震に関連する情報	”南海トラフ地震臨時情報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”,”大阪管区気象台”	”気象庁”	発表日時分	同左	ー	ー	ー	任意の識別番号※7	発表/取消	ー	ー	
75	南海トラフ地震関連解説情報	南海トラフ地震に関連する情報	”南海トラフ地震関連解説情報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”,”大阪管区気象台”	”気象庁”	発表日時分	同左	ー	ー	ー	任意の識別番号※8 任意の識別番号※7	発表/取消	n(1〜) ー	ー	観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況等を発表する場合の情報 「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合の情報
76	台風の暴風域に入る確率	台風の暴風域に入る確率	”台風の暴風域に入る確率”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”	”気象庁”	発表日時分※2	解析日時刻	–	予報対象期間の長さ	–	「TC」＋西暦の下二桁＋実際のTC番号二桁※3	発表/訂正/取消	n(1〜)§	Kind	§対応する「”台風解析・予報情報(5日予報)(H30)”」のSerialと同じ番号を記述する。
77	緊急地震速報(地震動予報)(新形式)	”緊急地震速報”	”緊急地震速報(地震動予報)”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”,”大阪管区気象台”	”気象庁”	発表日時分秒	同左	–	–	–	地震識別番号※1	発表/取消	n(1〜)	Kind,LastKind,Area	
78	長周期地震動に関する観測情報	”長周期地震動に関する観測情報”	”長周期地震動に関する観測情報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”,”大阪管区気象台”	”気象庁”	発表日時分秒	同左	–	–	–	地震識別番号※1	発表/取消	n(1〜)	Kind,LastKind,Area	
79	推定噴煙流向報	”推定噴煙流向報”	”推定噴煙流向報”	発信時システム時刻	”通常”,”訓練”,”試験”	”気象庁本庁”	”気象庁”	発表日時分	現象日時分。不明な場合は空タグとする	現象の時刻に「頃」がつく場合に”頃”を入れる	–	–	発表日時分＋火山番号	発表/訂正/取消	n(1〜)	Kind,Area	EventIDは訂正/取消のための索引

○EditorialOffice/PublishingOffice
気象庁本庁、及び東京管区気象台が発表する情報に関して、本XML電文ではEditorialOfficeを常に”気象庁本庁”とする。PublishingOfficeについては、表中の括弧書きに従う。
「観測担当官署」について、Control部Titleが”生物季節観測”以外のものは、各管区気象台、沖縄気象台、各地方気象台・測候所（航空官署を除く。）となる。”生物季節観測”は、このうちの一部の官署となる。
「府県予報担当官署」については、気象庁予報警報規程における府県予報区を担当する気象官署を示し、「分担官署」については、同分担気象官署を示す。
「地方予報担当官署」については、気象庁予報警報規程における地方予報区を担当する気象官署を示す。
「気象庁・河川事務所共同発表」「気象庁・自治体共同発表」については、それぞれの業務において共同発表する各気象官署名と各機関名の併記となる。
「火山担当官署」について、EditorialOfficeは、”気象庁本庁”、”札幌管区気象台”、”仙台管区気象台”、又は”福岡管区気象台”となり、PublishingOfficeは”気象庁”、”札幌管区気象台”、”仙台管区気象台”、又は”福岡管区気象台”のほか、対象地域に応じて”大阪管区気象台”、”沖縄気象台”、”鹿児島地方気象台”との連名・併記となる。
「海上予報中枢官署」について、EditorialOfficeは、気象庁本庁、札幌・仙台・福岡管区気象台、沖縄気象台、函館・新潟・名古屋・神戸・長崎・鹿児島地方気象台、大阪管区気象台（舞鶴）となり、PublishingOfficeは、気象庁、札幌・仙台・大阪・福岡管区気象台、沖縄気象台、新潟・名古屋・高松・鹿児島地方気象台となる。
「地方潮位情報担当官署」については、気象庁本庁、札幌・仙台・大阪・福岡管区気象台、沖縄気象台となる。
「府県海氷担当官署」については、稚内・網走・釧路地方気象台となる。
「スモッグ担当官署」については、気象庁本庁、札幌・仙台・大阪・福岡管区気象台、沖縄気象台、室蘭・福島・銚子・横浜・新潟・名古屋・津・京都・神戸・岡山・広島・高松・松山・下関・大分・鹿児島地方気象台となる。

○ReportDateTime/TargetDateTime/ValidDateTime
記載は、その時刻が業務的に持つ意味と、時刻の示す業務上の単位（精度）を示す。”–”表記は当該要素を利用しないことを示す。※印の意味は以下の通り。
※1 数分の誤差がある
※2 5分単位に丸める
※3 予報(発表)日時と同じ

○EventID
現象、予報・警報等の独立した情報単位として、他の情報と組み合わせて利用する場合にどのような値を含むのかを示す。”–”表記は独立した情報単位を示す際に当該要素を利用しないことを示す。※印の意味は以下の通り。
※1　14桁数字表記する。なお、同一地震であっても、緊急地震速報・震度速報（以上、自動処理による発表）と、津波警報・注意報・予報・津波情報・地震情報・長周期地震動に関する観測情報（以上、手動による発表）の間でEventIDが一致しないこともある。
　運用指針2.1.3.1の記載にかかわらず、地震・津波に関連する情報においては、Control/Title、Control/Status、及び地震識別番号の組み合わせが一致する一連の情報を「独立した情報単位」として扱う。（地震・津波に関連する情報においては、同一の地震であっても編集官署が切り替わる場合がある。また、津波に関連する情報では、複数の地震識別番号を持つ場合がある。）
※2　複数の現象（地震）による場合は、要因となる地震識別番号※1をxs:list型で列挙する。
※3　TC番号とは　海上風警報以上（WARNING　最大風速が28ノット以上34ノット未満）対象の熱帯擾乱に年間通番でつける番号。台風は34ノット以上。
※4　y1y1y1y1M1M1d1d1h1h1m1m1：　一連の情報を示すイベント番号（第1号の発表日時（JST））　y2y2y2y2M2M2d2d2h2h2m2m2：　当該情報を示す番号（当該情報の発表日時（JST））　(yyyy：西暦年　MM：月　dd：日　hh：時　mm：分)
※5「発表対象地域」は、当該土砂災害警戒情報の発表単位で、北海道と沖縄県以外は都道府県の名称となる。北海道は「宗谷地方」「上川地方」「留萌地方」「網走・北見・紋別地方」「釧路・根室地方」「十勝地方」「胆振・日高地方」「石狩・空知地方」「後志地方」「渡島・檜山地方」に、沖縄県は「沖縄本島地方」「宮古島地方」「八重山地方」に分割して発表するため、この名称となる。
※6　Body/MeteorologicalInfos部の@typeが”特殊気象報（風）”、”特殊気象報（気圧）”の場合、「発表日時分＋観測項目＋現象を観測した気象官署の国際地点番号」とする。
※7　発表する情報毎に任意の識別番号（14桁数字）を割り振る。識別番号そのものが物理的な意味（地震発生時刻等）を持つものではない。
※8　原則、発表する情報毎に任意の識別番号（14桁数字）を割り振る。ただし、続報を発表する際は、同一の識別番号を用いる。識別番号そのものが物理的な意味（地震発生時刻等）を持つものではない。

○Serial
※「空タグ」：　台風に関して必要時に発表する全般台風情報のうち、台風が発生したときに必ず発信する「発生情報」において、通番を用いず「空タグ」とする。
「n(1〜)」：　台風に関して必要時に発表する全般台風情報（総合情報、上陸等情報）、全般台風情報（位置）では、通番を1から付与する。これら台風の「位置情報」「総合情報」「上陸等情報」について一連の情報としており、一連の通番は原則これらの情報の発表順に付与する。
「x(1〜)-y(1〜)」：　台風になる前の熱帯低気圧に関して必要時に発信する「発達する熱帯低気圧に関する情報」では、熱帯低気圧に対し年間を通した番号をxに1から付与し、同じ熱帯低気圧に対しては固定する。同一の熱帯低気圧に対する一連の情報番号を、yに1から付与する。x、yともに2桁の固定長とし、xとyの間は「-」（半角ハイフン）で結ぶ（正規表現は”¥d¥d-¥d¥d”）。xは年が変わると1から始める。

○Code値の出現する要素
Head部における各種コード値を格納できる要素（”Code”要素）において、コード値が出現する際の親要素名を資料（情報）名別に表記する。